

こうごう か あ 咬合（噛み合わせ）検査

顎口腔（アゴと口と歯）には様々な機能がありますが、そのバランスが崩れると、頭痛、めまい、肩や首筋の凝り、顎が痛い、顎が鳴る、などの症状がおきる場合があります。

以下の検査は歪んでしまった咬合のバランスを知るための検査です。これらの検査は、咬合治療を始める前に、まず正確な診断をするために行います。

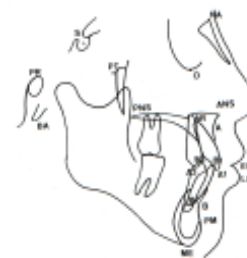
I：レントゲン撮影・・・骨格の検査

頭に対する下顎の骨格的なバランスや、咬合状態などを調べます。また首から頭にかけての骨格を見ることで肩や首の筋肉の負担の状態を調べます。この写真をトレースしたものが右側の図になります。このトレースした図を後に顎運動の解析と関連付けて、骨格や咬合が顎運動（アゴの動き）に及ぼしている影響の度合いについて調べます。

（レントゲン写真）



（トレース図）



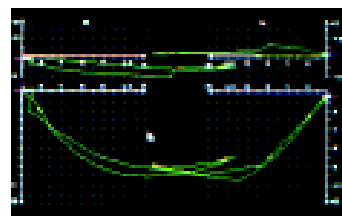
II：顎運動のコンピューター解析・・・運動の検査

コンピューターを使用し、顎の動きを3次元で解析する検査です。この検査では、

- * 顎の運動における、関節の動きの角度、方向、速度、移動量
- * 咬合のずれ
- * 左右の筋肉の緊張度、バランスの比較

などを調べます。また、右の図は骨格の写真をコンピューター上に入力したのですが、これらの重ね合わせによりコンピューター上で骨格や歯牙の動きをシミュレート（仮想的に動かすこと）し、治療方針の計画を立てます。

（運動の解析）



（骨格の解析）



III：顎模型解析

予め採っておいた歯型を、咬合器（顎運動のシミュレーションが可能な器機）上に取り付けます。これにより、頭に対する顎の位置や、個々の歯における噛み合わせの状態を知ることができます。また、II. 顎運動検査のデータを用いて咬合器を調節することで実際のアゴの動きを正確にシミュレートすることができるため、模型上で動きを再現しながら様々な検証を行います。それにより、

- i) 歯牙の摩耗や傾斜と、顎の中での位置
- ii) 噛み合わせた時の上下の歯の接触状態
- iii) 顎運動時の上下の歯の接触状態
- iv) 顎のズレ

を確認します。

以上の検査結果にもとづき、治療目標を決定し、治療のプランをたてます。